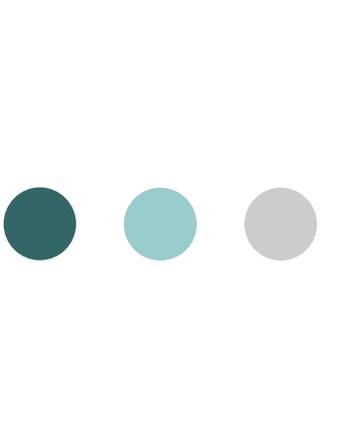
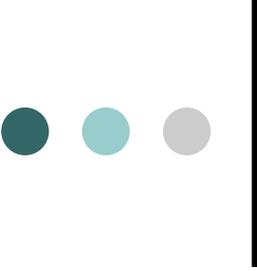


資料2



# 第3回訓練から得られた課題

平成19年3月12日(月)  
食品安全委員会事務局

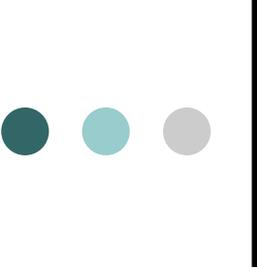


## 第3回訓練の目的

食中毒による被害が拡大化している中で、  
食品安全委員会としてどのような情報発信を  
するべきかを訓練する。

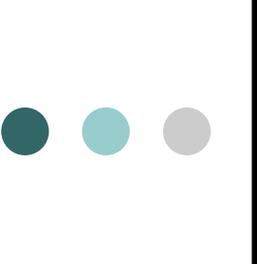
外部への発信能力の向上

緊急時対応の実践能力の向上



## 訓練の目標

- 食品安全委員会が情報発信すべき緊急事態についての展開イメージを共有する
- 緊急時の記者会見を模擬的に実施し、対応能力の向上を図る



## 第3回訓練構成

- 緊急時における情報提供のあり方についての  
レクチャー(2月6日)
- 情報提供の在り方についての検討(2月9日)
- 模擬記者会見(2月9日)



# 1. 情報提供の在り方についての検討

# オブザーバー参加された専門委員のコメント

## - 情報提供の在り方の議論について

- 顕在化、確定した資料のみで判断して情報開示するのでは国民から関心は持たれない
- 情報提供のタイミングの判断は、「死者の発生」「複数県での発生」等被害拡大が予測される要素がポイントではないか
- 委員会が関わるタイミングにあまりこだわる必要はない。提供できる情報を出来るだけ早く提供する(既存の知見等)方が、委員会が対応していることがわかりやすく、国民の目から見ても納得できる。
- 内容についても独自性や新しい知見にこだわる必要はなく、国民にとって有用な情報であればいい。

# オブザーバー参加された専門委員のコメント

## - 情報提供の在り方の議論について

- 委員会の提供する情報とは何なのか、リスク管理機関との違いはどこにあるのか等、もう一度整理しておくことが必要。少なくとも最新情報を出すところではなく、日常的に関係情報を収集・整理・分析した上で、科学的根拠に基づいたものをタイミング良くだすべきであろうと思われる。
- 委員会委員と事務局間で意見のすりあわせが出来ていないような印象を受けた。内部の調整に時間がかかりすぎると提供のタイミングを失うおそれがあるので、日頃から意見調整をしておく必要があるのでは。
- 委員長談話の内容についてはもう少し考慮する必要がある。

## 食品安全委員会委員及び委員会事務局員のコメント - 情報提供の在り方の議論について

- 情報をいくつかの要素に分けて整理してみると、いつ、どのような情報提供を行うかを考えやすいのではないか。（「スピード」「独自性・新しさ」「目的」）
- 全体を通しては対応に温度差がある。その認識の差については調整していく必要があるが、今回の議論の結果をまとめると、いつ、どのような情報提供を行うのかについては、整理できるのではないか。
- 委員長談話を出すタイミングとその内容は精査する必要がある

（出すことにより期待する効果とそれを得るための内容、委員会としてのメッセージ等）

# オブザーバー参加された専門委員のコメント

## - 訓練の運営について

- 各想定段階で情報を提供した場合のメリット、デメリットの分析が必要ではないか
- 検討については工夫がなされ、更に検討メンバーの熱心な討議により緊急事態の臨場感が感じられた。
- 今回は既に発生状況が想定されていたこともあり、訓練の目的や検討内容について理解しやすかった
- 演習に先立ち、スタッフに事前アンケートを行ったことも、参加者が内容を十分に把握した上で演習の議論に入ることが出来たという点でよかった。

## 食品安全委員会委員及び委員会事務局員のコメント - 訓練の運営について

- 情報の提供の在り方に絞った議論を行ったことで、認識の相違点が何処にあるのかが明確になった
- 事前アンケートを行ったことで議論の進め方を事前に練ることができた
- 事前アンケート等により訓練の内容がプレーヤーの頭に入っていたこと等により、論点が整理され内容の濃い議論ができた
- 提供した際のメリット、デメリットをはっきりさせて議論していくやり方も論点を整理できてよかったかもしれない
- アンケートについては内容や実施方法について検討の余地がある。

# 第3回訓練結果について

## - 情報提供の在り方についての検討 -

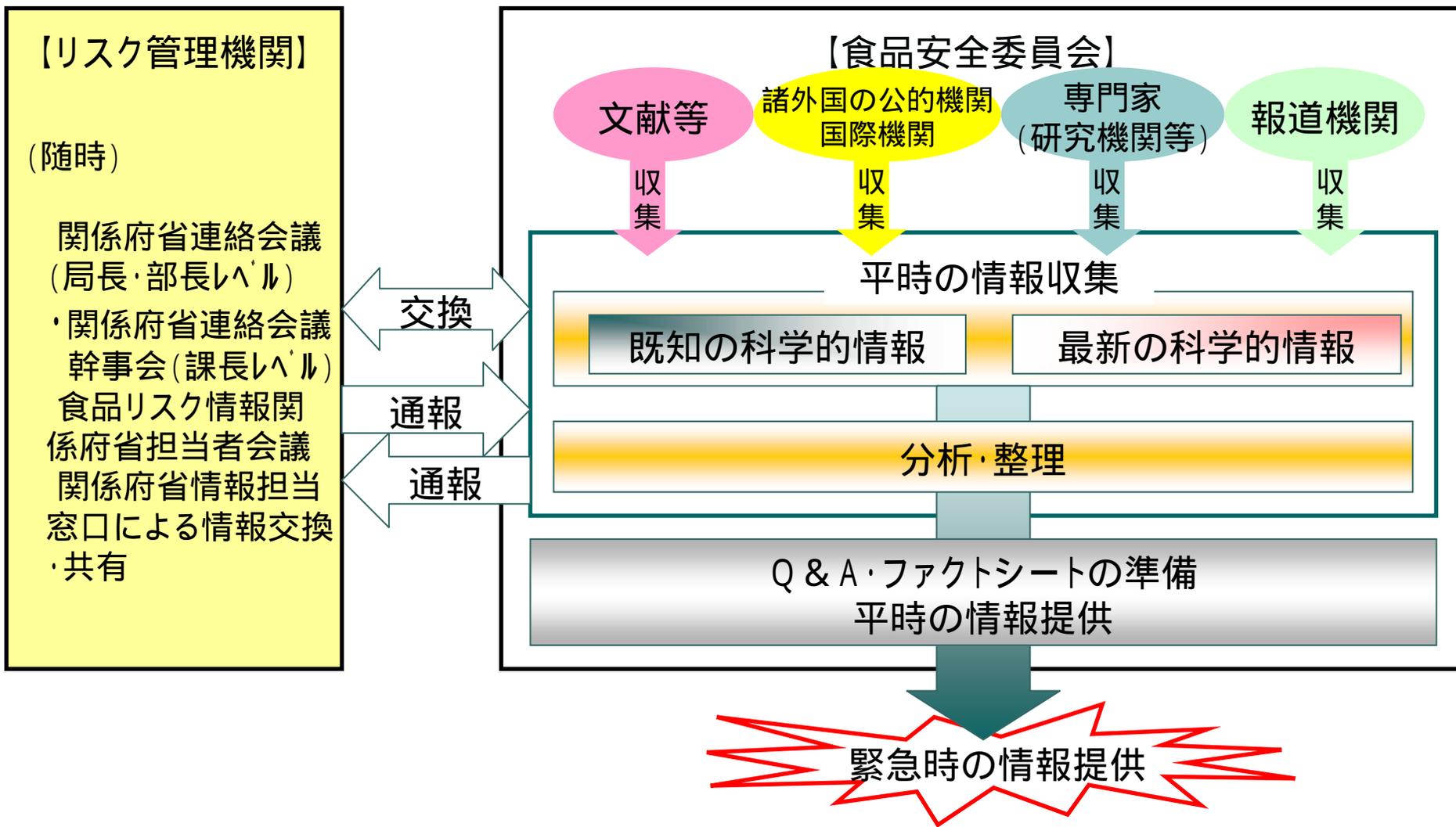
- 食品安全委員会が情報発信すべき緊急事態についての展開イメージを共有する

関係者で議論することで、「委員会の情報提供の在り方について」整理することができ、認識の共有を図ることができた。

しかし、プレーヤーの立場による考え方の違いや認識の違いも明確となった。

# 第3回訓練結果の整理

- 情報提供の在り方についての検討(情報収集及び分析について) -



# 第3回訓練結果の整理

- 情報提供の在り方についての検討(情報の提供について) -

平時からの情報収集・分析の充実

<判断要素>

- ・被害状況  
(発症数・死亡者数)
- ・被害拡大の可能性  
(複数県での発生等)
- ・原因・感染経路の特徴
- ・リスク管理機関の動き
- ・期待する効果 等

食品安全委員会からの情報提供

早い段階から提供する

期待する効果(健康被害及び風評被害の拡大防止など)  
が最大限得られると思われる時期に提供する

発生している事象に関する情報

- ・既知の科学的知見
- ・リスク管理機関の対応状況
- ・一般的注意事項

等

- ・Q&A
- ・委員会からのお知らせ
- ・各リスク管理機関とのリンク

食品安全委員会の知見を含めた情報

- ・最新の科学的知見
- ・発生している事象に関する科学的分析を加えた情報
- ・国民に対する注意喚起

等

- ・委員長談話
- ・委員会の考え方

<作成時の留意点>

- ・目的を明確にする  
誰に伝えたいか  
何を伝えたいか
- ・内容を精査する  
新しい科学的知見を含むものか  
蓄積された情報を整理し提供するものか  
国民に対するメッセージ性はあるか

# 第3回訓練の結果について

## - 訓練の運営について -

- 事前アンケートで論点を整理しての議論は、プレイヤーに検討の時間を与えることができ、また議題も整理された。
- 事前アンケートの内容については精査する必要がある。
- 論点が整理されるような議論の進行を工夫する必要がある。

# 第3回訓練から得られた課題(案)

## - 情報提供の在り方についての検討 -

- プレーヤーの立場による考え方や認識の違いの調整
  - (1) 今回の訓練及び総括会議により、委員会としての情報提供についての考え方について整理し、認識を共有することができたが、やはりプレーヤーの立場による考え方や認識の違いがあるため、日頃から意見調整をしておく必要がある。
  - (2) 今後も想定事例ごとの机上シミュレーションを繰り返し行い、展開イメージの共有を図る必要がある。
- 平時からの情報収集及び分析の充実
- 「委員長談話」「委員会の考え方」に含めるキーワードの整理

# 第3回訓練から得られた課題(案)

## - 訓練の運営について -

- アンケートを行う場合は、構成、内容、実施方法について検討する

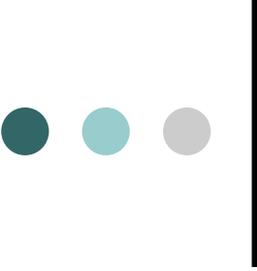
回答者が答えやすいようなアンケート設計が必要。

- 議論の進め方の工夫が必要

アクションを起こした時のメリット/デメリットをはっきりさせて論点を整理するなど、よりわかりやすい議論の進め方が必要。



## 2. 模擬記者会見



# 第3回訓練の評価方法

評価者によるチェック(評価シートの活用)

訓練直後の反省会

アンケート調査

総括会議

# 評価シートによる評価

## 評価者の印象 ( 1 / 2 )

区分	結果	項目
全般		記者会見全体をコントロールできていたか
		全般的に記者に伝えたいメッセージが伝わったか
		全般的に記者との信頼関係を築けたか

# 評価者の印象 ( 2 / 2 )

区分	結果	項目
スポークス パーソン		記事にして欲しいメッセージが強調できていたか
		オフレコの話をしていないか
		意地悪な質問等に冷静に対応したか
		資料等で数字を示して説明したか
		必要に応じてサポート役に対応を依頼できたか
		バーバルなコミュニケーションについて適切な対応ができたか
		ノンバーバルなコミュニケーションについて適切な対応ができたか
司会		定刻どおり記者会見を開始させられたか
		記者の質問の交通整理ができたか
		終了のタイミングを適切に見極められたか
		適切に会見を終了できたか
補佐役		資料等で数字を示して説明したか
		必要に応じてサポートを行えたか

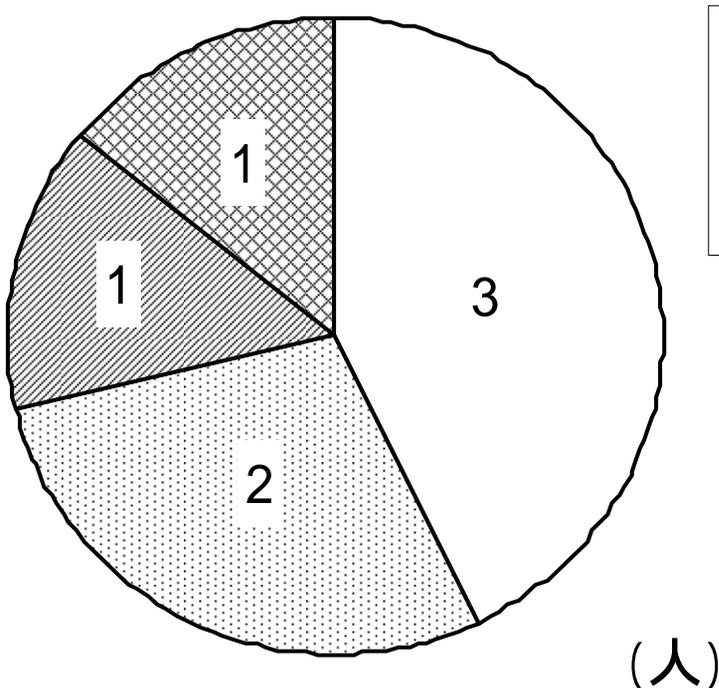
# 訓練当日のアンケート質問項目

模擬記者会見での対応について	訓練の運営について
全般 委員会からの説明 質疑応答 良かった点(自由記述) 課題点(自由記述)	全般 訓練の構成 付与情報の頻度 良かった点(自由記述) 課題点(自由記述)

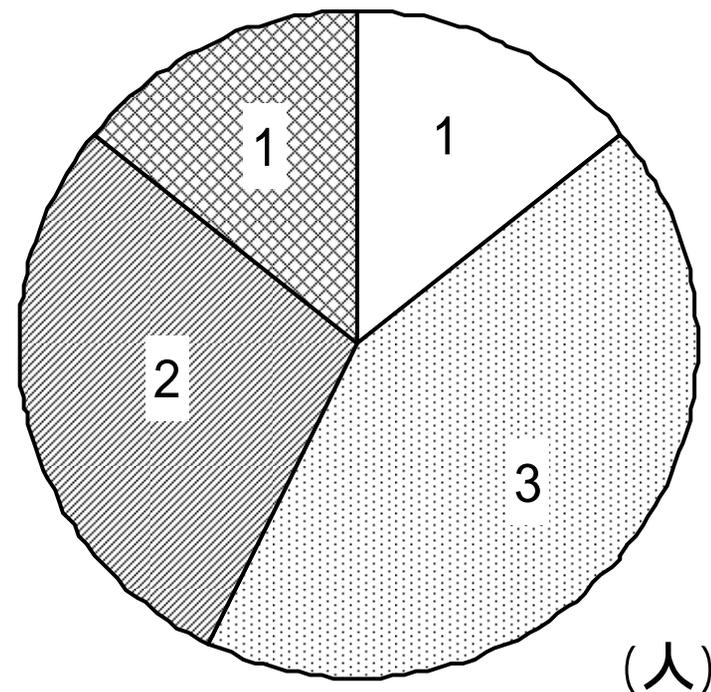
# アンケート結果

## - オブザーバー参加された専門委員のアンケート

### 全般



### 委員会からの説明

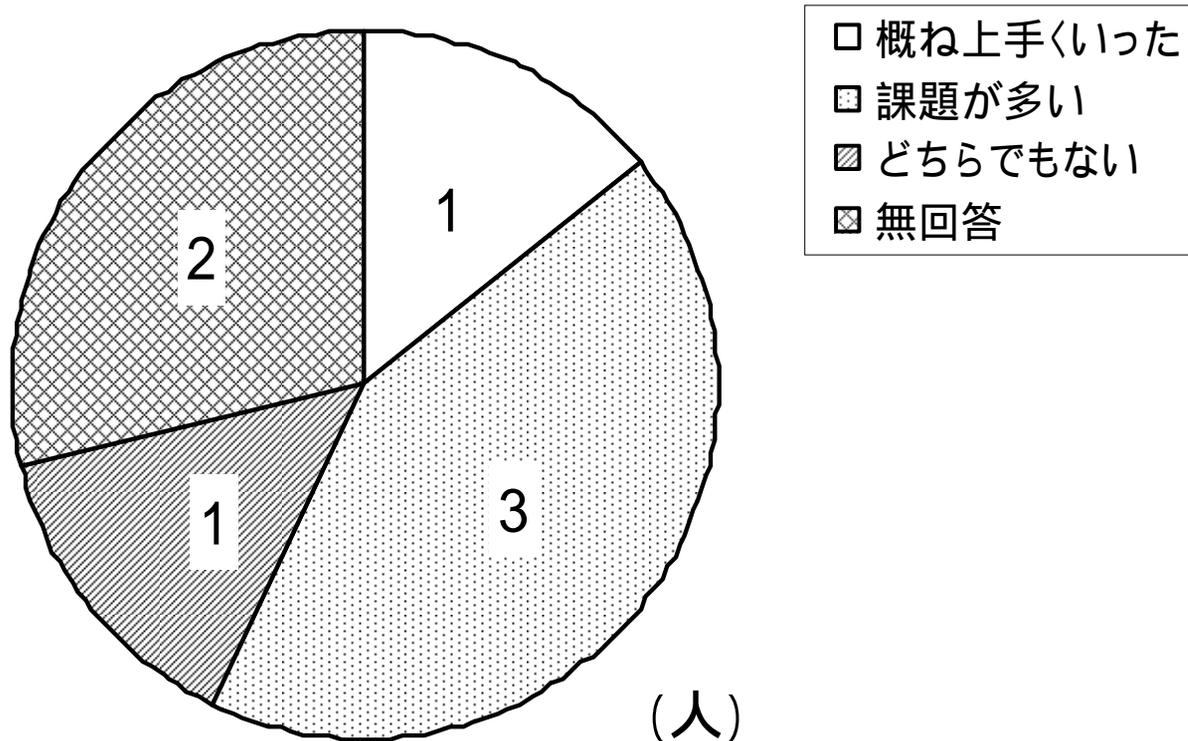


- 概ね上手くいった
- ▨ 課題が多い
- ▩ どちらでもない
- ⊠ 無回答

# アンケート結果

## - オブザーバー参加された専門委員のアンケート

### 質疑応答

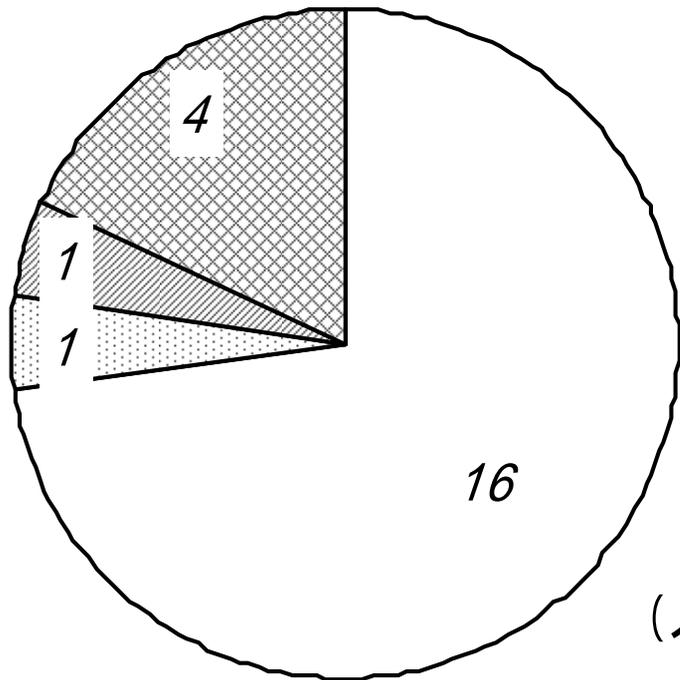


# アンケート結果

## - 食品安全委員会委員及び委員会事務局員のアンケート

### 全般

全体

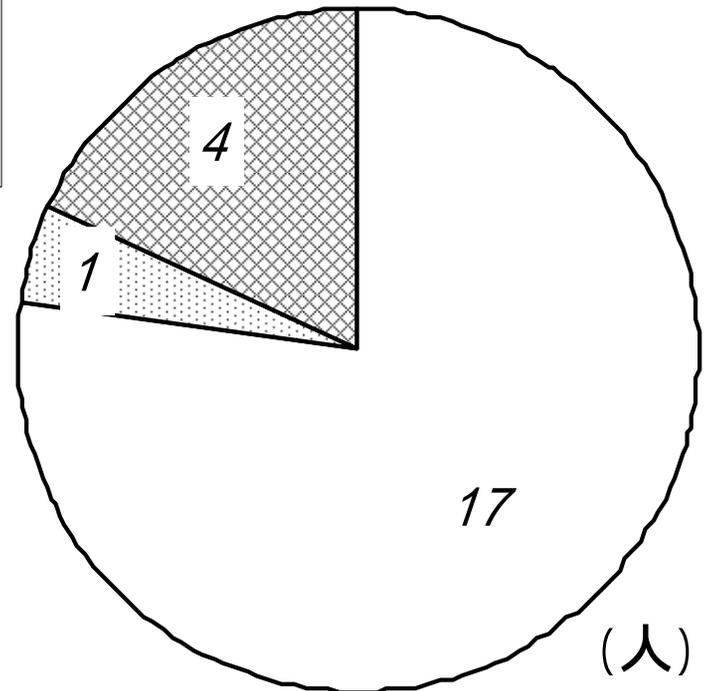


(人)

- 概ね上手くいった
- ▨ 課題が多い
- ▧ どちらでもない
- ▩ 無回答

### 委員会からの説明

全体



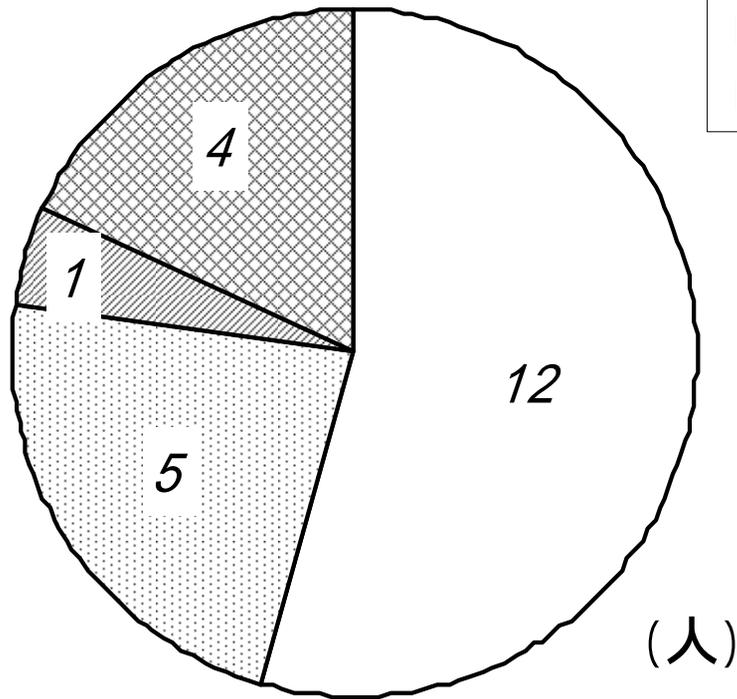
(人)

# アンケート結果

## - 食品安全委員会委員及び委員会事務局員のアンケート

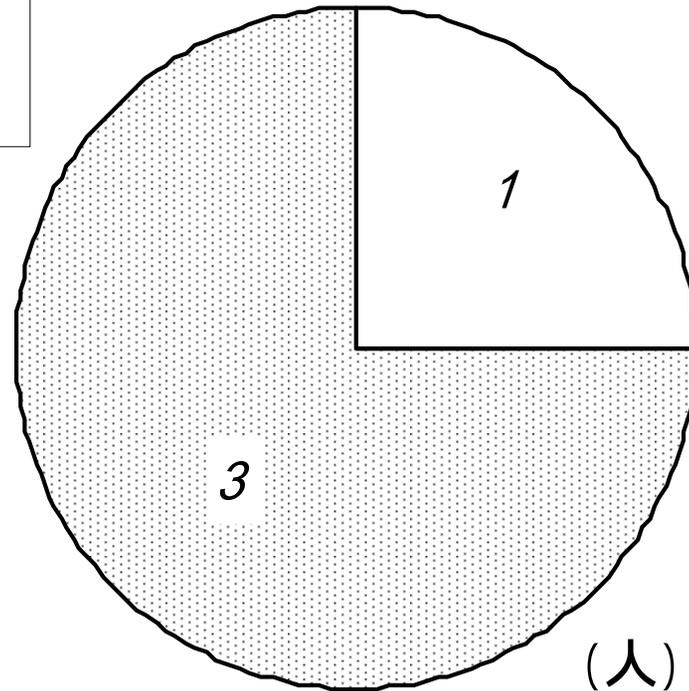
### 質疑応答

全体



- 概ね上手くいった
- ▤ 課題が多い
- ▨ どちらでもない
- ▩ 無回答

模擬記者



# オブザーバー参加された専門委員のコメント

## - 会見について

- 記者の質問に対する回答ぶりが重要なポイントである。
  - 内容に対応した回答
  - 「一問一答」「簡潔に」が応答の基本
  - 仮定の話をするときは、誤解を与えないようしなければならない
- 会見内容や質問への答えは原稿を読むのではなく、自分の言葉で表現すべき。
- 会見で守るべき要素(服装・仕草・表情・話し方等)についても訓練を受ける必要がある。
- 会見でふれる内容について整理しておく。
  - リスク管理機関の対応状況
  - 疫学情報
  - 原因の概説

# 食品安全委員会委員及び委員会事務局員のコメント

## - 会見について

- 記者の質問内容に対応した回答をするべき
- 会見者の話し方はゆっくりで聞き取りやすかった
- 会見内容や質問への答えは原稿を読むべきでない  
(事前レクをしっかりと行い、会見時はメモのみ)
- 広報担当は会見者が記者会見に臨む前に身だしなみ等を確認すべき
- 会見者の視線の配り方に気をつけるべき

# オブザーバー参加された専門委員のコメント

## - 訓練の運営について

- こうした模擬訓練を行うことにより、関係者が記者会見の場面を実際にイメージ出来るようになることは重要
- 臨場感があった
- 様々なタイプの記者が用意されていたことがよかった

## 食品安全委員会委員及び委員会事務局員のコメント - 訓練の運営について

- 今後注意すべき点が明確化された
- 本物の会見の雰囲気に対応できた
- このような機会を何度も経験する必要がある
- 記者会見での臨場感を高めるため、傍聴者(発言しない記者役)にも設定をよく説明する必要がある
- 記者の質問をもう少し増やしても良いのではないか  
(参加記者は既に他省からの情報入手した上で質問するので、他省からの説明との矛盾や不整合を突く質問を用意してもよい)
- 会見終了後はそれで終了ではなく、実際は記者がぶら下がり  
を求め会見者を囲むということもあるので、その設定まで実際  
に行った方がよい

# 第3回訓練結果について

## - 模擬記者会見 -

- 緊急時の記者会見を模擬的に実施し、対応能力の向上を図る

プレーヤー自身が、疑似体験することにより、広報対応の難しさについて自覚することができた

対応時の注意点や課題点を抽出することができた

# 第3回訓練から得られた課題(案)

## - 模擬記者会見 -

- 会見で守るべき要素(服装・仕草・表情・話し方等)を習得する
  - 広報に関する講習やメディアトレーニングを行う
- 経験を積み、場慣れしておく
  - 様々な設定の訓練を繰り返し行う
  - マスメディアの前に出る機会がある人は訓練やトレーニングを受けておく